大学？短大？専門学校？

先輩に聞いた、それぞれのメリット

リクルート進学総研の調査によると、短大や専門学校に進学した人たちの3～4割は、高校入学当初は大学志望。高校3年間でいろいろ考えて進路変更をするケースは珍しくない。大切なのは、自分の目的や希望と照らし合わせてじっくり検討すること。こんなときには進学経験者の意見も参考にしてみたいところだ。

というわけで、今年進学した先輩たちに聞いた大学・短大・専門学校それぞれのメリットを紹介しよう。

大学は、学生生活が長いこともあり、自分が成長できる場、幅を広げられる場としてとらえている人が多い。勉強・就職とは直接関係ない「楽しみ」が上位にきているのは大学だけ。といっても、短大や専門学校でもクラブ・サークル活動は楽しめる。（念のため）。

短大は「早く社会に出られる」が2位以下を大きく引き離してトップ。2位を見ると、まだ目指す仕事までは決まっていない人も多いのかもしれない。

専門学校は仕事・就職や、そのための専門知識・技能習得に関係するメリットがズラリと並んでいる。

ほとんど仕事・就職関連のメリットが挙がっている短大・専門学校と比べると、大学はそのあたりのトーンは弱めな印象がある。

ただし、これは目指す業種や仕事を、すでにある程度決めているのか、これから自分の可能性を広げるなかで決めていこうとしているのかの違いも大きい。

最終的に「就職」というところにつながっていくのはどこも同じなので、「就職重視なら専門学校がいいの？」と結論づけるのは早いかも。大学で教養の幅や視野を広げたほうがより自分に合った仕事を見つけられる可能性だって十分あるからだ。その点を踏まえつつ、先輩たちの挙げたメリットを参考に、自分の希望や志向にピッタリ合う進路を考えてみよう！

（伊藤敬太郎）

●大学進学者が感じている「大学に進学するメリット」

1位　将来の選択肢が広がる　80.4%
2位　学生生活が楽しめる　80.3%
3位　クラブ・サークル活動を楽しめる　79.3%
4位　幅広い教養を身につけられる　77.2%
5位　有名企業や大手企業に就職できる可能性が高くなる　77.1%

●短大進学者が感じている「短大に進学するメリット」

1位　早く社会に出られる（2年で卒業できる）　79.1%
2位　少なくともどこかに就職できる可能性が高くなる　58.9%
3位　自分の目指す仕事・職種につける　58.6%
4位　やりがいのある仕事ができる　58.2%
5位　自分のやりたい専門分野の勉強に集中できる　57.4%

●専門学校進学者が感じている「専門学校に進学するメリット」

1位　自分の目指す仕事・職種につける　86.6%
2位　自分のやりたい専門分野の勉強に集中できる　86.2%
3位　特定の業種・業界に就職しやすい　83.3%
4位　手に職をつけられる　82.2%
5位　そこでしか学べない内容がある　79.1%

高校生が、ふんどし姿で「現代の飛脚」に挑戦！

2013年夏、ふんどしを締めて荷物を運ぶ高校生が都内に出没した。このスタイル、歴史の教科書で見たような…？　そう、これこそまさに「現代の飛脚」なのだ。

現代の飛脚に挑戦したのは茨城県在住の塙佳憲くん（高1）。業務は企業から依頼を受けて書類や小さな荷物を運ぶこと。8月は3日間、東京23区内で実施し、その後は月1回のペースで行っている。

料金は運ぶ距離によって異なり、500～1000円。基本的に走って運ぶが、疲れたら電車やタクシーも使う。目的は「儲けること」ではなく「希薄になっている現代の人と人とのコミュニケーションを取り持つこと」という。それにしてもなぜ飛脚姿なのか？

その理由を聞くと「単純にふんどしが好きで、おもしろそうだったから。下着を買おうとインターネットを検索したら、偶然ふんどしの通販サイトを見つけた。高かったので、布を買って自分で、ミシンで縫って作ったのが始まり。そこから飛脚という発想が出てきた。大人に話すと皆さんおもしろがってくれて、アドバイスもいただきました」

真夏とはいえ、露出の多い飛脚姿は注目の的。背後で「パシャ」というカメラ音が聞こえることはしょっちゅう。不審顔のビル警備員に引き止められたことも…。

しかし、「毎回、朝は恥ずかしいですが、だんだん感覚がマヒしてきて午後には平気になる」と塙くん。依頼先や届け先ではたいてい歓待され、ねぎらいの言葉だけでなくアイスをもらうこともあった。これからの季節は「腹巻をして頑張る」そうだ。

そんな塙くんの活動は現代の飛脚にとどまらない。中2の頃から母親が参加する講演会や地域活性イベントについていくようになり、多様なプロフィールをもつ大人たちと交流を深めている。

また、大人たちが名刺交換する場面を見て「自分の名刺も欲しいな」と独学でグラフィックを勉強して名刺をデザイン。それが周囲に認められ、名刺デザインの仕事を請け負うようにもなった。

しかもその中に埼玉県の高校の先生がいて「うちの『総合的な学習の時間』の授業で生徒に名刺デザインを教えてくれないか」と依頼され、高校1、2年の夏に、高校生を相手に講師を務めたこともあるそう。

現代の飛脚、名刺作成ビジネス、高校で講師など、塙くんの動きに驚いた高校生も多いだろう。しかしながら、これらの活動の背景には、大人たちのアドバイスや応援がある。もしかして、実社会では一見トンデモナイ発想や行動が、案外求められているのかも!?

（藤崎雅子）

※塙くんの活動詳細は「進学ジャーナル」で読むことができます。